

「水土を守る人々」では、農業や農業用水の役割とこれらが持つ多面的機能等が十全に発揮されていくために、農業水利施設等の維持管理を支える人々の日常にスポットを当てて、その取組を紹介することで、農業農村整備や多面的機能の発揮が「人」の支えの上に成り立っていることを伝えていきます。

培った技術力を活かし地域を支える農業施設を守り抜く

～西濃用水土地改良区連合 主査 松下 義文 氏～

岐阜県揖斐郡

今回「水土を守る人々」で紹介するのは、西濃用水土地改良区連合の主査、松下義文さんです。西濃用水は、濃尾平野の北西部に位置する岐阜県の大垣市をはじめ1市6町にまたがる約5,300haの農地に農業用水を供給しています。この地域は昔から水源が少なく、かんばつの常襲地帯でしたが、揖斐川に新たにダムを設け水源を確保するとともに、国営西濃用水土地改良事業（S43～58年度）や国営西濃用水第二期土地改良事業（H21～26年度）により岡島頭首工や幹線水路約40kmが整備され、現在では水稻を中心に、麦、大豆を組み合わせた大規模な土地利用型農業が展開されています。さらに、再生可能エネルギーを活用するための小水力発電施設等が運用されています。

今回は、この優良な農業地域において、基幹的水利施設や発電施設の管理をされている松下さんへの取材を通して、地域を支える施設や取組等をご紹介します。

1. 地元の農業とともに歩んできた松下さん

松下さんは、平成15年に大学を卒業してから16年間、地元である西濃用水土地改良区連合に勤めています。実家が兼業農家で、小さいころから「水」や「環境」に興味がありましたが、職種をあまり絞り込まずに就職活動を行っている際に、土地改良区の存在を知り、地元で貢献できて、実家で手伝っているコメ作りの経験を活かせる職業だと思い、就職を決めたそうです。

西濃用水土地改良区連合は、地区内の基幹的な農業水利施設を管理しているため、職員は、末端までを管理する規模の大きな土地改良区と比べて少なく、1日4名の体制であり、その中で松下さんは採用以来16年間、工事管



西濃用水土地改良区連合 松下主査

理係を担当しています。頭首工、水路のパトロールと併せて、管内の水稻の作付状況や生育状況を自身の目で確認しながら取水量を調整するなど、営農状況を重視する松下さんですが、毎日のパトロールで末端のほ場まで水が到達しているのを見ると、自分が調整した用水が県下有数の穀倉地帯を支えているという自信と喜びを感じるそうです。「いかに農家がストレスなく営農に従事できるかが大切です。地元から連絡がないときは、水量調整が間違っていないことの裏返しなので、安心します。」と語ってくれました。

2. 地域に貢献する小水力発電を支える技術者として

西濃用水土地改良区連合が管理する農業用施設内では、平成27年4月から2カ所（出力70kWと30kW）の小水力発電所と、1カ所（出力47kW）の太陽光発電所が稼働しています。

発電所の維持管理には、電気主任技術者の資格が必要です。発電所ができた頃は、外部の電気主任技術者に管理委託していましたが、大学ではシステム工学を学んでいた松下さんは、“自身で管理したほうが経費の削減や緊急時の対応が迅速にできる”と考え、電験三種（第三種電気主任技術者試験）の受験を決意したそうです。独学のみでは難しいと判断し、東海農政局が主催する電気理論講習会と全国水土里ネットが主催する研修にも参加するなど、精力的に勉強に励まれた結果、わずか1年3ヶ月の受験準備で合格率約8%の試験に見事合格しました。地域のために努力を惜しまない人柄と、自身が管理する施設は自身で責任を持つという熱い思いが伝わってきました。現在は、地区内の電気施設の管理を一手に引き受ける有資格技術者として、なくてはならない存在です。

「自身の管理している発電所の売電収入によって農家の方々の賦課金が軽減できており、その施設を維持管理していることに喜びを感じるとともに、責任も大きくやりがいを感じる。」と充実した表情で語ってくれました。



地区内の小水力発電所



小水力発電所にて
点検をする松下さん

3. 父親からの教えを胸に

現在の仕事への取組を支えているものは、父親の存在であるそうです。小さい頃から父親の背中を見て育ち、稲作のノウハウを全て父親から学んだ松下さんは、今でも

仕事の合間に実家の稲作を手伝うそうです。「稲作を知り尽くしているからこそ、この仕事ができる。」と誇らしげに語ってくれました。

そして「電験三種を取得し、発電所の電気主任技術者に選任されているが、実務経験に乏しいことを痛感している。電気は目には見えないことから、スキルアップすることは難しい。だからもっと、電気に積極的に触れていきたい。研修はもちろんのこと、可能であれば保安協会等に向向するなどして実務経験を積みたい。」と飽くなき挑戦心を語ってくれました。資格を持つ、有能な技術者ならではの地域の盛り上げ方を、今後も注目していきたいと思います。

当土地改良区連合でたった一人の技術系職員であり、何事にも積極的に取り組む松下さんですが、これからも地域の期待の存在として様々な課題に取り組んでいかれることと思います。愛する地元の農業をさらに盛り上げ、今後もお活躍されることを祈念しています。そして、私たちも同じ土地改良事業に携わる者として、未来ある農業・農村のあり方を共に探求していきます。



熱い思いを語ってくれた松下さん